

名古屋大学 最先端国際研究ユニット 「文化遺産と交流史のアジア共創研究ユニット」 中間成果報告会（2019～2021年度）

日時：2022年3月24日（木）17：00～19：00

開催方法：オンライン（Zoomウェビナー）

使用言語：日本語・英語（同時通訳）

参加方法：事前申込制 *3月22日（火）までに下記リンクからお申し込みください。

<https://forms.gle/2iPRQ5VK4wA9i6637>

開催趣旨：本研究ユニットは、名古屋大学の研究大学強化促進事業の一環として設置された最先端国際研究ユニットの一つとして、2019年4月に活動をスタートさせました。アジア文化交流史により生成した文化・宗教遺産を対象として、世界最先端の文化遺産と交流史のアーカイブを有するアジア共創研究拠点を構築することを目指し、3年間にわたり研究を進めてまいりました。設置期間終了にあたり行われた最終評価では、本ユニットの活動が認められ、2024年度まで3年間の活動継続が決定しました。そこで、これまでの本ユニットの研究活動を紹介する中間成果報告会を開催いたします。

報告者



近本謙介（名古屋大学 人文学研究科、ユニット代表者）

専門は日本宗教文芸。南都寺院における唱導資料や絵画・芸能の研究を中心としつつ、諸宗交流の過程に形成される聖教や寺院のネットワーク、遁世僧をめぐる文芸史についても考察している。



梶原義実（名古屋大学 人文学研究科）

専門は日本考古学。飛鳥～奈良時代の古代寺院研究を中心に、とくに地方における国分寺の造営過程について、寺院出土の古瓦資料から実証的な分析を加えている。



Steffen Döll（ハンブルク大学 人文学部）

専門は日本仏教史。とくに、鎌倉～室町時代の中世仏教における禅宗の伝来、渡来僧の役割、宗派の自己理解、寺院の空間構造、関連する伝説の解釈などを中心に研究活動を行っている。



影山悦子（名古屋大学 人文学研究科）

専門はイスラーム以前の中央アジア文化史。とくに「シルクロードの商人」として知られるソグド人の宗教や風俗について、壁画や考古資料をもとに考察している。



程永超（東北大学 東北アジア研究センター、共同研究者）

専門は前近代（17～19世紀）東アジア（徳川日本・朝鮮王朝・明清中国）国際関係史と異文化交流史。一次資料を比較検討し、二国間関係（日本と中国）に第三の視点（朝鮮）を導入し、東アジア史の再構築をめざしている。

主催：名古屋大学 最先端国際研究ユニット「文化遺産と交流史のアジア共創研究ユニット」（代表：近本謙介）／人文学研究科附属 人類文化遺産テキスト学研究センター

共催：科研費基盤研究（A）「中世拠点寺院と蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明」（研究代表者：近本謙介）20H00012／科研費挑戦的研究（萌芽）「科学技術を駆使した唱導資料と交流史に基づく東アジア法学会学創成への挑戦」（研究代表者：近本謙介）21K18360／科研費基盤研究（B）「古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究」（研究代表者：梶原義実）／科研費基盤研究（C）「新出資料によるウズベキスタン南部ファヤステパ遺跡出土壁画の再検討」（研究代表者：影山悦子）20K00185

